



2015年8月31日

国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター

第124号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

## 今月の話題

- 第2回中南米地震工学研修 閉講式
- エルサルバドルでの構造実験
- 研修生からの手紙

## 研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 第2回中南米地震工学研修 閉講式 - エルサルバドル、サンサルバドル市 -

国際地震工学センター長 横井 俊明

中南米地震工学研修の閉講式が7月24日にエルサルバドルの首都サンサルバドル市にあるクラウンプラザホテルのホールにて開催されました。閉講式では、次の方々にご出席賜りました。

Francisco Alarcón 教授(エルサルバドル大学(UES) 建築学部学部長)、Carlos Rivas 教授(ホセ・シメオン・カニヤス中米大学(UCA)副総長)、Claudia Blanco 氏(サルバドル開発社会住宅財団(FUNDASAL) 事務局長)、立原佳和氏(JICA エルサルバドル事務所所長)、Edgar Peña 教授(エルサルバドル大学建築学部 土木工学科長)。なお、Edgar Peña 教授(2004-2005 地震工学研修)には、司会を務めていただきました。

UCA の教授である Adolfo Ramos 氏 (2009-2010 地震工学研修) と Monica Gutierrez 氏 (2008-2009 地震工学研修) のお二方は UCA にて実規模構造実験を主導されており、閉講式にご列席くださいました。また、UES でプリズムテストと縮尺モデル実験を主導されている Carlos Escobar 氏にもご列席いただきました。

閉講式は、5月25日からの研修に一貫して参加した6ヶ国16名の参加者、そして6月13日からサンサルバドル市にて部分的に参加した10人の方達との心温まる楽しい時間となりました。現地での研修実現のためご助力いただきましたすべての方々に感謝申し上げます。すべての研修生が研修に満足し、そして彼らが学んだ事や経験を自国で広めてくれるよう、願っています。

最後に、サンサルバドル市はアンティグオ・クスカトラン地区にて、エルサルバドルの典型的な料理であるププサを経験したことは忘れがたく、ここに申し添えます。

講義で使用する言語はスペイン語です。詳細については、遠慮なく IISEE にお問い合わせください。



閉講式にて

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方  
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)



## 論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

## エルサルバドルでの構造実験

### (中南米地震工学研修、在外研修)

国際地震工学センター 上席研究員 犬飼 瑞郎

2015年、中南米地震工学研修の後半に、在外研修が、エルサルバドルで実施されましたので、ご紹介します。在外研修の場所は、エルサルバドル共和国・サンサルバドル市に位置する国立エルサルバドル大学(UES)と私立ホセ・シメオン・カニヤス中米大学(UCA)でした。



写真1: 在外研修開始時の開講式

在外研修は、7月13日から7月24日まで実施されました。講義では、エルサルバドルで使用される建築材料を用いた構造実験への参加を中心として、レンガを用いた枠組組積造壁等、建築物の構造体の一部が、地震を想定した外力により破壊されるまでの経過を、全研修生が、UES またはUCA の先生から指導されました。今年も、UES 及びUCA から大学生5名ずつが追加で参加し、本

邦研修からの研修生16名と合わせて、合計26名が参加しました。

写真1は、在外研修開始時の開講式です。UES 及びUCA の先生、JICA エルサルバドル事務所の方々が参加されました。場所は、サンサルバドルのホテル会議室です。式のあと、早速、講義が同じ会議室で始まりました。

写真2は、UCA でのレンガを用いた枠組組積造実大壁試験体の実験終了後です。研修生の皆さんは、大変熱心に実験に取り組み、質疑も積極的でした。

他に、講義室において、実験結果の概要の説明を先生から受け、各国の枠組組積造の基準の概要についての情報交換が行われました。

また、エルサルバドルにおける公共事業省、普及住宅開発財団等の共同プロジェクトにより建設されたモデル住宅の視察も、JICA エルサルバドル事務所のご協力により、行われました。



写真2:UCA でのレンガを用いた  
枠組組積造実験後

## 研修生からの手紙✉



楽しむのは今です。

### 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願いします。

iiseenews@kenken.go.jp  
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは  
下記をご覧下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

✉ Ms. Adiya Munkhsaikhan:

モンゴル科学アカデミー天文学・地球物理学研究所  
研究者  
(モンゴル、地震学コース、2005-2006)

Adiya Munkhsaikhan 氏が、ウィーンで6月に開催された CTBT: Science and Technology 2015 Conference (SnT2015)に参加し、同会議にて EU Star Award を受賞されました。

Munkhsaikhan 氏は 2005-2006 通年研修の研修参加者です。彼女から、以下の投稿をいただきました。

「JICA の支援も得て、我々、モンゴル科学アカデミー天文学・地球物理学研究所 (IAG)の一同は、1996 年から IISEE と協力関係にあります。私は IAG の研究者です。

私は、IISEE の 2005-2006 通年研修に参加し、GRIPS(政策研究大学院大学)及び BRI(建築研究所)が認定する修士号(修士:防災政策)を取得しました。

つくば市に関しては、とても安全で親切的な街という印象が残っています。つくば市で勉強する機会を得たことをとても幸せに思っていました。

“Seismic swarm near the capital of Mongolia investigated using double difference tomography (Double Difference トモグラフィー法によるモンゴル首都近辺の群発地震の研究)”という私の発表が、ウィーンで開催された SnT2015 にて EU Star Awards 2015 を受賞した瞬間はとても感激しました。

IAG 及びストラスバーク大学による惜しみない支援がなければ、このような賞を受賞することはなかったでしょう。

IAG、IISEE/BRI、GRIPS、そしてストラスバーク大学のアドバイザー及び共著者の方々に感謝の意を表したいと思います。

Munkhsaikhan Adiya 』